

第26回「鉄道のある風景写真コンテスト」の開催のご案内

～日本の四季折々の鉄道のある風景を題材に写真コンテストを開催～

日本の四季折々の鉄道のある風景等を題材に、昨年は857点の応募をいただいた写真コンテストを今年も開催します。

グランプリ受賞作品は、例年、「鉄道の日」（10月14日）に関連して開催される行事の中で、審査委員長の長根広和氏（写真家）より作品の紹介と表彰をいただいています。

（※昨年度の表彰式は、「鉄道の日」祝賀会で行われましたが、今年度の開催については、決まりしだい鉄道・運輸機構ウェブサイトなどでお知らせします。）

■第26回「鉄道のある風景写真コンテスト」の概要

主催：「鉄道の日」実行委員会
独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構

テーマ：日本の四季折々の「鉄道のある風景」を題材とした作品

受付期間：令和7年7月1日（火）～8月31日（日）（必着）



第25回グランプリ作品『絶景花火電車』

受賞作品：	グランプリ（国土交通大臣賞）	1点
四季賞	春賞	{ 四季賞の中から、 鉄道の日実行委員会会長賞 2点、 国土交通省鉄道局長賞 1点、 鉄道・運輸機構理事長賞 1点 を選出
	夏賞	
	秋賞	
	冬賞	
	シティ・トレイン・ビュー賞	1点
	ジュニア賞（※18歳以下を対象）	1点
	入選	数点

審査結果発表（予定）：10月上旬鉄道・運輸機構ウェブサイト

添付資料：第26回鉄道のある風景写真コンテスト募集要領
第25回鉄道のある風景写真コンテスト作品集



ウェブサイト



X公式アカウント

<本件に関するお問合せ先>

鉄道助成部 特定財源管理課 四元、村田
TEL 045-222-9122

第26回「鉄道のある風景写真コンテスト」募集要領

令和7年4月25日

主催者

「鉄道の日」実行委員会
独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構（鉄道・運輸機構）

後援

国土交通省



テーマ

日本の四季折々の「鉄道のある風景」を題材とした作品を募集します。

応募受付期間

令和7年7月1日（火）～令和7年8月31日（日）必着

応募資格

・アマチュアの方で、撮影マナーをしっかりと守っていただける方ならどなたでも応募できます。

応募規格

※応募規格外の写真は、審査の対象外となります。

- ・応募作品は、他のコンテスト等の受賞歴がないものに限る。（詳細は注意事項①をお読み下さい。）
- ・**A4サイズ**でプリントアウトしたもの。
- ・額装、合成写真、AI加工された写真及び組み写真は不可。
- ・**令和4年1月1日以降に撮影をしたものに限る。**
- ・応募点数は、一人5点まで可能。
- ・無人航空機（ドローン等）により撮影した写真は不可。

応募方法

- ・応募作品には1点ごとに「作品情報票」を裏面にテープで貼付した上で、「応募票」（送付封筒1通毎に1枚作成）を同封して下記応募先まで送付して下さい。（直接の持ち込みは禁止します。）なお、「作品情報票」及び「応募票」は本要領の最終ページの利用、もしくは鉄道・運輸機構ウェブサイト（<https://www.jrtt.go.jp/>）よりダウンロードして作成してください。必要事項について記載があれば自作のものでも構いません。
- ・応募作品が、送付中に作品が折れたり、汚れないようビニール袋に入れる、厚紙に挟む等の包装を推奨します。

応募・問い合わせ先

〒231-8315 横浜市中区本町 6-50-1 横浜アイランドタワー27 階
鉄道・運輸機構 鉄道助成部内 写真コンテスト係
電話 045-222-9122

表彰

応募作品の中から

・グランプリ	国土交通大臣賞	1 点
・四季賞		4 点
春賞	四季賞の中から、鉄道の日実行委員会会長賞 2 点、 国土交通省鉄道局長賞 1 点 鉄道・運輸機構理事長賞 1 点 を選出	
夏賞		
秋賞		
冬賞		
・シティ・トレイン・ビュー賞		1 点
・ジュニア賞 (18 歳以下を対象)		1 点
・入選		数点

グランプリ受賞者には、賞状、トロフィー、副賞及び記念品を贈呈いたします。

四季賞、シティ・トレイン・ビュー賞受賞者には、賞状、副賞及び記念品を贈呈いたします。

ジュニア賞受賞者及び入選者には、賞状及び記念品を贈呈いたします。

審査委員

審査委員は、次の方々をお願いします。(敬称略)

審査委員長	長根 広和 (写真家)
審査委員	金子 雄一郎 (日本大学教授)
審査委員	矢口 正子 (株式会社交通新聞社 出版事業部 副部長)
審査委員	国土交通省鉄道局長
審査委員	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構理事長

審査結果の発表

入賞・入選者へは、鉄道・運輸機構から直接ご連絡するとともに、令和 7 年 10 月上旬に、鉄道・運輸機構ウェブサイト (<https://www.jrtt.go.jp/>) にて発表します。

なお、グランプリ受賞者は、例年、10 月に東京で行われる「鉄道の日」関連行事の中で表彰式を行っています。今年度の開催については、決まりしだい鉄道・運輸機構ウェブサイトなどでお知らせします。

また、一部の作品は、鉄道・運輸機構の広報印刷物などにも利用する予定です。

個人情報の取り扱いについて

作品をご応募の際には、別添の「応募票」「作品情報票」に正確な応募者の個人情報を記入し、主催者に提供いただく必要がありますので、応募者は、自らの意思に基づき個人情報の提供についてご判断ください。なお、必要な個人情報を提供していただけない場合、主催者は当該応募を受け付けません。

(利用目的)

- ◇ 提供していただく個人情報は、以下の目的で必要な範囲で利用されます。
 - ・ 入賞、入選者への通知
 - ・ 本コンテストの応募作品に関する応募者への問合せ
 - ・ その他、本コンテストの運営上必要な場合
- ◇ 入賞、入選者の氏名、住所（都道府県のみ）は、本コンテスト関係のウェブサイトや印刷物その他で、入賞、入選作品を紹介する際にも掲載されます。

(個人情報の管理)

個人情報の取り扱いについては、関係法令に従い適正に管理します。

注意事項

- ① 応募いただく作品は、他のコンテスト等の受賞歴のない作品で応募者が一切の著作権を有しているものに限ります。応募者による同一または類似作品は、規模の大小にかかわらず、他のコンテストなどに応募中または応募予定の場合は応募できません。但し、応募者本人の制作による市販目的のない写真集や本人のウェブサイト（SNS 含む）に掲載された作品、審査のない写真展に出品した作品は応募可能です。
- ② 応募作品で使用する被写体（人物等）及び著作物等については、被写体および著作権等の権利者から応募者が事前に使用許諾・承認を得た上で応募してください。応募作品に関し、第三者からの権利侵害や損害賠償などの苦情、異議申し立てがあった場合といえども、主催者は一切の責任を負わず、応募者が全て対処するものとします。
- ③ 応募作品に関する著作権は、応募者に帰属するものとします。
- ④ 入選者は主催者に対し、主催者が管理するウェブサイト（SNS 含む）、展示会、印刷物、宣伝広告物等において、入賞・入選作品を公表、表示、複製、展示、公衆送信（送信可能化を含む）、頒布等し、かつ、それらの全部または一部を第三者に再許諾できる無償の非独占的権利を許諾するものとします。
- ⑤ 主催者は、前項に関連して、入選作品の全部または一部を改変（色合いの変更を含む。）できるものとします。
- ⑥ 入選者は、主催者および主催者から許諾を受けた第三者に対し、著作者人格権を行使しないものとします。
- ⑦ 応募作品は返却いたしませんのでご了承ください。
- ⑧ 入賞・入選内定者は、指定期限内に原版（ネガ・ポジ等）またはデジタルデータを提出していただきます。期限内に提出いただけない場合、入賞・入選の内定を取り消します。なお、原版（ネガ・ポジ等）で提出いただいた場合は、使用後に当該原版を返却いたします。
- ⑨ 応募作品の受領通知は行いませんので、ご了承下さい。
- ⑩ 応募作品（入賞・入選作品に関しては提出いただいた原版及びデジタルデータも含む）の取扱いには十分注意しますが、万一応募作品に関する損失、紛失等の事故（送付中の事故も含む。）が生じた場合であっても責任は負いかねます。
- ⑪ 審査選考に関するお問合せ及びご要望には応じかねます。
- ⑫ 撮影にあたっては、列車往来などに十分注意してください。鉄道用地・私有地への無断の立ち入りや違法駐車、ゴミの投棄などの近隣住民への迷惑行為及び危険行為は絶対に行わないで下さい。これらの行為のうえ撮影されたと思われる作品は審査対象外とします。また、撮影に起因する事故やトラブル等については、主催者は一切の責任を負いかねます。
- ⑬ 主催者は、応募者が応募した時点で本募集要領に記載されている諸条件に同意したものとみなします。本募集要領に明記されていない事項については、主催者が最終的な決定権をもつものとします。また、主催者の決定に同意できない場合、応募者は応募を撤回することができますが、応募の撤回にともなう費用は、全て応募者の負担となります。
- ⑭ ご応募が本募集要領に違反すると主催者が判断した場合は失格となります。また、入賞・入選決定後に違反が判明した場合も同様となり、入賞・入選の取消しや副賞等を返還していただく場合があります。この場合の費用は、全て応募者の負担となります。

応 募 票

(ふりがな) 氏名	(歳) ※ 1	性別
住所	〒 -	
連絡先	自宅電話番号 : 携帯電話番号 : E-mail :	
作品タイトル※ 2 () は季節を記載	1 . () 4 . () 2 . () 5 . () 3 . ()	
コンテスト応募の きっかけ ※ 該当項目を○で囲んで下さい。	a) 鉄道雑誌 (雑誌名 :) b) カメラ雑誌 (雑誌名 :) c) 新 聞 (新聞名 :) d) 鉄道車内広告、広報誌等 (鉄道会社 :) e) インターネット (ウェブサイト :) f) 家族・友人の薦め g) これまでに応募したことがある (回目) h) その他 (具体的に :)	

※ 1 応募時点での年齢をご記入ください。

※ 2 応募者が今回のコンテストに応募した「全ての作品」のタイトルを 1 . ～ 5 . にご記入ください (順不同)。

作 品 情 報 票

【それぞれの作品裏面に貼付】

(ふりがな) 氏 名	(歳) ※ 1		性別
(ふりがな) 作品タイトル			
撮影日時等	年 月 日 時頃 (春 ・ 夏 ・ 秋 ・ 冬) ※ 2		
撮影場所	鉄道会社名 ※ 3	(	線 間)
撮影コメント※ 3 (撮影時の状況や狙い、 感想、エピソード等)			
カメラ種別※ 4 カメラ機種 レンズ	種 別：フィルム・デジタル・その他 () 機 種： レンズ：		
撮影データ※ 3 (絞り・シャッター速度等)			
本コンテストへの 応募回数	回 目		
写真撮影歴※ 3	約 年		

※ 1 応募時点での年齢をご記入ください。

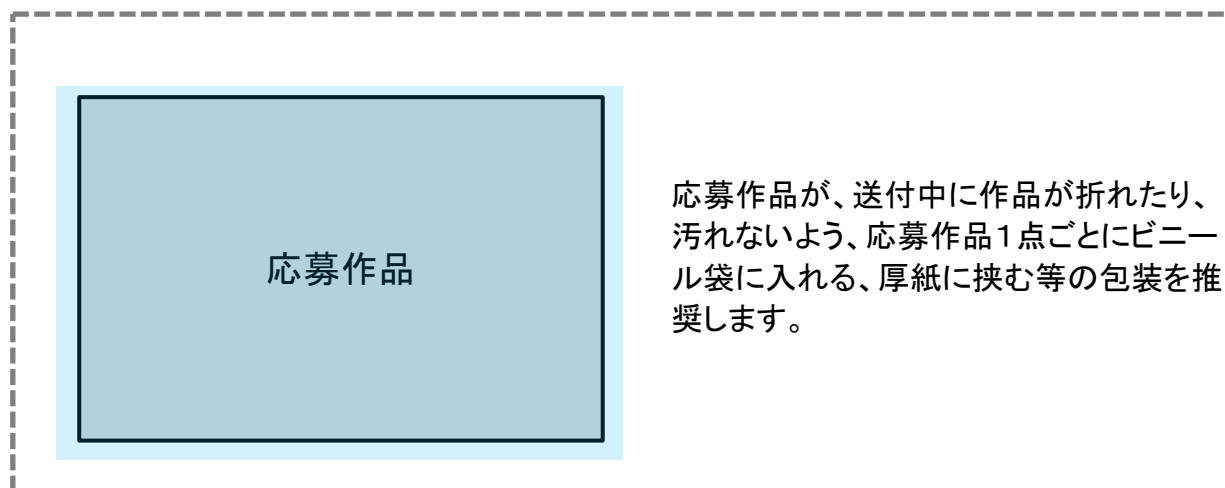
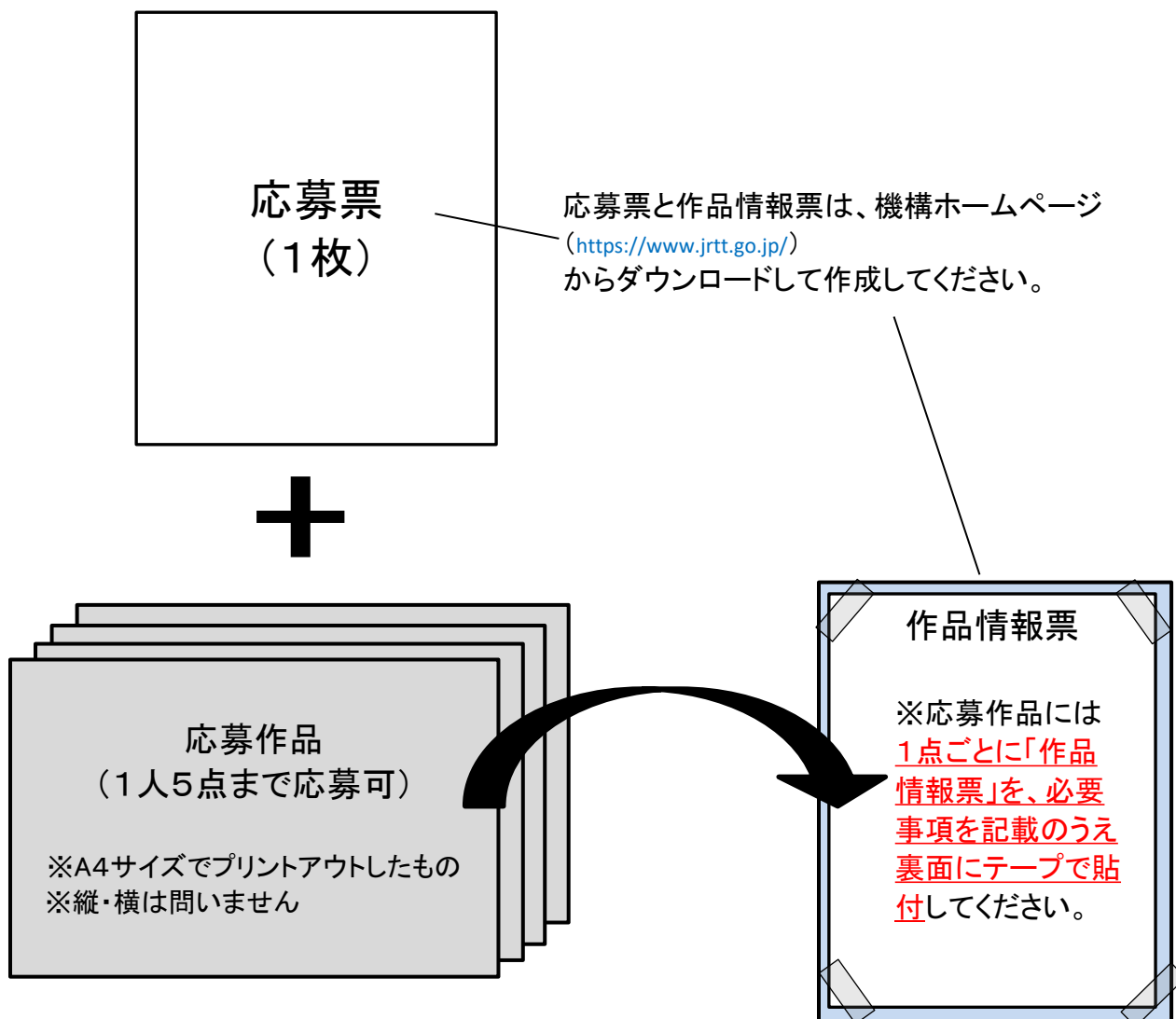
※ 2 応募作品について、応募者が該当すると感じている季節を○で囲んでください。

※ 3 可能な範囲でご記入ください。

※ 4 該当する種別を○で囲んでください。

第26回「鉄道のある風景写真コンテスト」の応募方法

◆ご送付いただくもの



第25回

鉄道のある風景写真コンテスト 作品集

今年の夏も猛暑・猛暑と暑い日々が続きましたが、お気に入りの路線がある方には、連日の猛暑日にもめげず夏の風景を求めて撮影地に赴いたことでしょう。この好きな路線を持つことはとても大切に、写真を上達させる早道にもつながるからです。その路線を走る車両に魅かれたのか、沿線の美しい風景や四季が見せてくれる彩りに魅かれたのか、好きになったその沿線の全ての魅力を探そうと資料を集めることで沿線の自然や風土、その土地に住む人や動物、そして歳時などに接することで自分の撮りたい風景がより明確に見えてくるからです。

好きな路線を走る列車を撮り続けることで、その土地ならではの光と影が創り出す陽の回りをより多く体感することができるので、これぞという決定的瞬間を写し込めることができます。その感覚が、新しく興味を持った路線に訪れても、作者の強い味方になってくれるのです。

あなたにしか撮れないあなただけの「鉄道のある風景写真」を楽しみましょう。

写真家 猪井 貴志

グランプリ 国土交通大臣賞 笠井 忠(奈良県)



『絶景花火電車』

(阪急電鉄 京都本線 十三駅～大阪梅田駅)

撮影者のコメント

淀川河川敷から望む「なにわ淀川花火大会」。花火と阪急電車は、まるで銀河鉄道の夜のような幻想的な光景でした。

総 評

第25回「鉄道のある風景写真コンテスト」の応募に、日本全国から老若男女を問わず、今年も多数の応募が寄せられました。その作品の全てを審査員一同ワクワクしながら応募作品の選考にあたりました。

今年特に感じられたのが、朝日や夕陽が見せてくれるマジックアワー（日の出から30分以内、日の入り30分前から日没まで）の時間帯が創り出す微妙な色彩の光と影を巧みに表現された応募作品を数多く拝見することができました。「美しく」「カッコよく」「暖かい」応募作品を寄せてくれた皆様の「鉄道のある風景写真コンテスト」への熱い思いを感じさせていただきました。

以前にも記させていただきましたが、今回も最後の仕上げのプリントで残念ながら落選した方々がいらっしゃいました。思いを込めて撮影したご自身の作品を大切にしてください。

第25回「鉄道のある風景写真コンテスト」のグランプリに輝いたのは、笠井忠さんの「絶景花火電車」。美しい大輪の花火と列車を見事にコラボさせてくれました。この作品は合成ではなく一枚撮りとのこと。まさに作者の想像力・ロケハン力・技量を駆使して粘り強くチャンスを待った賜物でしょう。フレーミングの良さ、シャッターチャンスの巧みさ、また、列車の窓明かりからは花火を目にした乗客の歓声が聞こえてくるような臨場感あふれる作品になりました。

写真家 猪井 貴志

春賞（鉄道・運輸機構理事長賞）

小林 俊明（神奈川県）



『たんぽぽの道』

（東日本旅客鉄道 小海線 野辺山駅～信濃川上駅）

撮影者のコメント

残雪のハヶ岳山麓を行く JR 小海線
高原の春は遅く 5 月になってタンポポが咲き誇る
小海線が春の風を連れてきた！

秋賞（「鉄道の日」実行委員会会長賞）

松田 喜幸（山形県）



『朝霧が晴れて』

（東日本旅客鉄道 北上線 ゆだ錦秋湖駅～ほととゆだ駅）

撮影者のコメント

8時20分通過の横手行きは、濃い霧で何も見えず音だけでした。それが一転して徐々に霧が晴れ、景色の全容が現れ始めた時、北上行きの一輛が汽笛を鳴らして鉄橋に来ました。「風吹くな！」と念じつつ、撮りました。

夏賞（「鉄道の日」実行委員会会長賞）

寺澤 秀樹（愛知県）



『夏色風景』

（三岐鉄道 三岐線 三里駅～丹生川駅）

撮影者のコメント

猛暑が続く中、夏色風景を求めて三岐鉄道に足を運びました。清涼感を醸し出す小さな堰堤を見つけたので、ここを撮影ポイントに決めました。青空の中に湧きたつ入道雲が水面に映り、夏らしさを演出してくれました。

冬賞（国土交通省鉄道局長賞）

井上 修（福岡県）



『出力全開』

（西日本旅客鉄道 山口線 徳佐駅～鍋倉駅）

撮影者のコメント

列車の通過時刻になって吹雪となり激しく雪が降って来ました。一日に一本しか運行していないSLを『流し撮り』するかどうか、直前まで惑いましたが、何とか撮れたようです。理解出来ない雪の流れ？風の流れ？も写っているようです。

シティ・トレイン・ビュー賞 田中 祐也(北海道)



『帰宅ラッシュ』

(北大阪急行電鉄 南北線 緑地公園駅～桃山台駅)

撮影者のコメント

昼間から同じ場所に立ち続けて、この写真を撮影できたのは夕暮れ頃です。気づけば、ちょうど帰宅ラッシュにも重なって、車の渋滞の間を電車が駆け抜けていきました。

ジュニア賞 天野 和佳奈(東京都)



『近代と現代』

(東武鉄道 鬼怒川線 鬼怒川温泉駅)

撮影者のコメント

昨年のGWに鬼怒川に行った時、駅の前にある転車台が動く知り、実際に見てみたいと思ったのがきっかけです。動いている所を今は中々見れないSLと奥に見えるJRの日光号を同時に撮れたことで、昔の鉄道の象徴とも言える汽車と現在の鉄道の電動車を改めて知ることができる。なので近代と現代というタイトルにしました。

入選 小檜山 裕行(宮城県)



『 Morgenロート』

(阿武隈急行 阿武隈急行線 南角田駅～北丸森駅)

撮影者のコメント

朝霧の中を走る電車と、遥か彼方に見える吾妻連峰を一緒に撮りたくて通い続けたある日、朝日に染まる吾妻連峰を捉えることができました。

入選 御子貝 正仁(埼玉県)



『燃ゆる秋』

(真岡鐵道 真岡線 寺内駅～真岡駅)

撮影者のコメント

真岡鐵道 C1266 号機は期待通りの白煙を出して真っ赤に紅葉したもみじの中を終着茂木駅に向けて駆け抜けて行きました。もみじの中から太陽も入り満足する1枚となりました。

入選 松島 宏晶(群馬県)



『花桃沿線』

(わたらせ渓谷鐵道 わたらせ渓谷線 神戸駅～沢入駅)

撮影者のコメント

花桃と桜の共演で、盛春を満喫したひと時でした。
あかがね（銅）色の気動車がよく似合っていました。

入選 岡田 頼和(東京都)



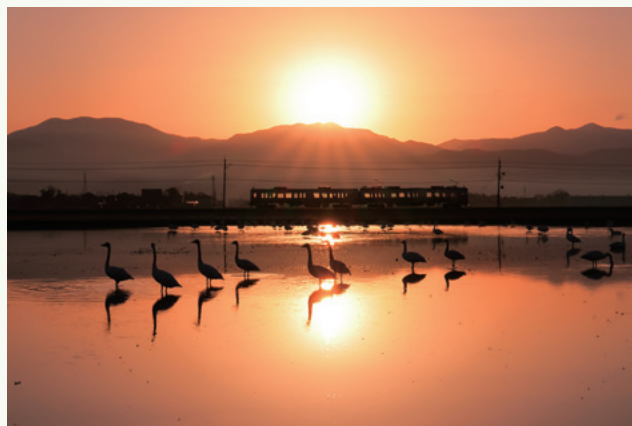
『追憶の駅舎』

(平成筑豊鐵道 田川線 油須原駅)

撮影者のコメント

九州に線状降水帯が発生し天気が危うい中、早朝に博多より向かいました。油須原についた時の一瞬の雨上がりをねらってノスタルジックな九州最古の木造駅舎を撮影しました。

入選 佐々木 英樹(福井県)



『共演』

(えちぜん鐵道 三国芦原線 大関駅～下兵庫こうふく駅)

撮影者のコメント

ここはコハクチョウ達の越冬地、この日は快晴無風の最高のコンディションで電車を待ち受けました。踏切音と同時に心の鼓動を抑えながらシャッターを切りました。

入選 山野 修一(熊本県)



『御輿来海岸の春』

(九州旅客鉄道 三角線 網田駅～赤瀬駅)

撮影者のコメント

菜の花と山桜の咲く御輿来海岸に陽が傾き、潮の引いた海岸に三日月の砂浜が望めます。その海岸線をJRの列車が夕陽を浴びながら走ります。その自然の作り成す風景は、見る人に何とも言えない安らぎを与えます。

入選 廣瀬 靖之(大阪府)



『海風に走る』

(阿佐海岸鉄道 阿佐東線 海部駅～宍喰駅)

撮影者のコメント

世界で初めて導入されたDMV（デュアル・モード・ビークル）が近づいてくると、ガタンゴトンと車輪の音が大きく聞こえ始めましたが、現れた車両がボンネットバスのようなので、不思議な感じでした。

(敬称は略させていただきました)

第25回 鉄道のある風景写真コンテストの概要

主催 「鉄道の日」実行委員会／鉄道・運輸機構
後援 国土交通省
募集期間 令和6年7月1日(月)～令和6年8月31日(土)
審査 令和6年9月4日(水)午後 鉄道・運輸機構にて開催
応募数 857点(応募者数:313名)

写真の審査は、次の方々をお願いいたしました。(敬称略)

審査委員長	写真家	猪井 貴志
審査委員	(株)交通新聞社常務取締役	中村 直美
	東京女子大学教授	竹内 健蔵
	国土交通省鉄道局長	五十嵐徹人
	鉄道・運輸機構理事長	藤田 耕三

入賞・入選 作品の展示

令和6年10月13日(日)～14日(月)
令和6年10月23日(水)～11月4日(月)
令和6年11月14日(木)～25日(月)
令和6年12月4日(水)～18日(水)
令和6年12月26日(木)～令和7年1月9日(木)
令和7年1月17日(金)～31日(金)

- ①第31回鉄道フェスティバル会場(東京・お台場)
- ②鉄道博物館(さいたま市大宮)
- ③京都鉄道博物館
- ④神戸高速鉄道 新開地駅(メトロこうべ中央広場)
- ⑤つくばエクスプレス 浅草駅
- ⑥東京臨海高速鉄道 東京テレポート駅

第26回は、令和7年春に募集案内を告知する予定です。
応募要領は、鉄道・運輸機構ウェブサイトをご覧ください。



明日を担う交通ネットワークづくりに貢献します。

鉄道・運輸機構

Japan Railway Construction, Transport and Technology Agency

〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1(横浜アイランドタワー)

TEL 045 (222) 9100(代表)

URL <https://www.jrtt.go.jp/>

● 鉄道・運輸機構とは ●

● 沿革

鉄道・運輸機構は、平成15年10月1日に「日本鉄道建設公団」と「運輸施設整備事業団」が統合し、発足した独立行政法人です。

● 仕事の内容

輸送に対する国民の需要の高度化、多様化等に的確に対応した大量輸送機関を基幹とする輸送体系の確立を図ることなどを目的として次の業務を行っています。

新幹線鉄道等の
鉄道施設の建設



内航船舶の
建造、共有



国際業務
(鉄道建設技術)



鉄道施設整備
等への助成



JR北海道、JR四国及び
JR貨物の経営自立支援



地方公共交通等への
出資、資金の貸付



北海道新幹線
(新函館北斗・札幌間)



明日を担う交通ネットワークづくりに貢献します。



鉄道・運輸機構